

2025 年度 看護職員の負担軽減及び処遇改善の計画と評価

項 目	現状と課題	具体的な取り組み
業務量の調整	・看護記録の簡略化に向けシートを活用、時間短縮に繋がっているか評価が必要である。 ・AI の導入に向けて、何を使用するのか情報収集し予算を検討。 ・夜勤者と日勤者の区別をマスクの色分けの結果についてデータを集計中。 ・多様な勤務形態の導入を検討する。	① ICTの活用／導入 ② 応援システムと多職種連携の強化 ③ 会議開催時間の短縮とメディアの活用 ④ 他施設の情報収集と調整
看護職員と他職種との業務分担	〈救急救命士〉 救急外来の業務以外に、病棟の看護補助者業務の協力はできている。 〈臨床工学技士〉 夜間や休日のアクシデント対応は強力を得られている。研修受講者の手術室・心カテ室・透析センター・内視鏡センターにおけるタスクシフト・タスクシェアはできている。 〈リハビリテーション〉 リハビリテーション時の送迎及び帰室時のバイタルサイン測定、緊急時やアクシデント発生時の対応等は実施。 〈その他〉 看護職員の時間外労働について、運営会議で報告し各部署長の理解と協力を依頼した。	① 業務内容及び連携内容について見直し。 ② 看護師の負担軽減に関する連携会議の開催。 ③ 特定行為研修終了者に関するマニュアルなどの作成及び会議の開催
看護補助者の配置	看護補助者の業務の見直しと業務マニュアルの改定と看護補助者研修の内容を検討した。 救急救命士のサポートは継続。 給与の高い施設に転職するスタッフが増加。採用希望者は未経験者が多く、教育と定着に向けた取り組みが必要。	① 業務マニュアルの見直し ② 看護補助者教育に関する課題と評価 ③ 賃金の検討 ④ 高校訪問や出前講座の実施
短時間正規雇用の看護職員の活用	日勤常勤、休日勤務の制限など申請により対応。 夜勤専従者やパート職員の採用も実施しているが、全体的な負担の軽減に繋げるのは難しい。	① 夜勤専従や短時間勤務者の採用継続 ② 多様な勤務形態の導入に向けて検討 ③ 働きやすい職場環境の調整
多様な勤務形態の導入		
妊娠・子育て中・介護中の看護職員に対する配慮	夜勤や休日出勤の免除及び制限を取り入れ、働きやすい環境作りを実施。院内保育が無いため、企業保育と提携しサポート。男性職員の育休も院内掲示するなど継続して実施。出産後の復帰も増加している。	① 夜勤の減免、休日出勤制限の継続 ② 企業保育との連携と情報提供など広報活動 ③ 勤務中の休息できる環境の整備 ④ 他部署への配置換え
夜勤負担の軽減	夜勤対応可能な職員は日曜祝日の勤務も多く、早出や遅出等の負担が大きい。看護補助者及び救急救命士等の連携以外に、夜勤専従の看護師や応援ナースを採用。夜勤の回数に応じた手当の支給など実施しており引き続き対応していく必要がある。	① 応援システムの継続 ② 人員確保（夜勤専従及び常勤者） ③ 仮眠時間の確保／翌日の休みの確保 ④ 処遇改善の継続